

リヨンセンター UDL/STARMAJ インターンシップ 体験記

氏名	木幡 雄太郎
所属	医工学研究科医工学専攻 / 流体科学研究所 太田研究室
指導教員	太田 信 教授
研究課題	脳血管疾患(AVM/AVF)における医療用画像を用いた血流解析
派遣期間	2019/09/04 - 2019/10/31
派遣機関	INSA Lyon
受入教員	Prof. Carole Frindel

およそ2カ月の間、フランスのリヨンにある INSA Lyon (Institut National Des Sciences Appliquees LYON)に滞在しました。

リyonはフランス第二の都市である一方、仙台と同じくらいの規模感でしたので、広すぎず人も多すぎず、大変住みよいところでした。また、スーパーの従業員や街行く人からはフレンドリーな印象を受け、日本よりは少し警戒しながらも安心して生活出来ました。

研究では、INSA Lyon 内の CREATIS (Centre de Recherche en Acquisition et Traitement de l'Image pour la Sante)という研究室にお世話になり、修士研究の一部を行いました。当初の予定では医療用画像から血液の流速を推定することを目標としておりましたが、Carole 先生とのディスカッションにより模擬医療用画像を作成するところから始めました。当初の目標まで達成することはできませんでしたが、修士研究の方向性を決める重要な決断として、良い方を選択できたと思っています。

先生とのディスカッションでは、バックグラウンドが違うためか自分にない考えを発信してくるので、その意見交換がとても楽しかったです。時には、モデルの向きや位置などを言葉で表現するのが難しくお互い絵を描きあった場面もありました(笑)。

また、フランスの PhD 学生のプレゼンテーションを聞く機会もあり、日本とフランスのプレゼン技術を比較することは非常に自身のためになったと思っています。例えば、フランスの方のプレゼンでは話を伝えたいという気持ちが強く伝わってきて、スライドよりも話している人自身に注目が集まると感じました。一方、日本の方のプレゼンではスライドに注目が集まるような発表の仕方、スライドが分かりやすく作られている傾向があると思います。どちらが良い・どちらが悪いという話ではなく、違いを知る・異なった世界を知るのが、多様性の醍醐味ではないでしょうか。両者のいいところや自分のスタイルに合うものを取り入れていき、自分なりに最高のスタイルを見つけたいと思います。



図 1. 宿泊場所：INSA Lyon の寮（2人部屋）



図 2. 一番おいしかった料理（Strasbourg で食べた Baeckeoffe）



図 3. レストランにて（研究室の同期・先輩と）